

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に係る運用要綱

(平成14年10月1日設定)

改正 平成17年4月1日

改正 平成17年7月1日

改正 平成18年4月1日

改正 平成28年4月28日

第1 目的

この運用要綱は、日本中央競馬会（以下「本会」という。）に対する「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号。以下「情報公開法」という。）」に基づく開示請求の処理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

第2 体制等

1 情報公開・個人情報保護窓口の場所

総務部情報公開室（以下「情報公開室」といい、別表第1に記載する本部に置く。）に、情報公開・個人情報保護窓口を置く。

2 情報公開・個人情報保護窓口の開設時間

情報公開・個人情報保護窓口の開設時間は、午前10時から午後0時及び午後1時から午後5時とする。ただし、以下の日は開設しない。

- ①土曜日、日曜日
- ②国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- ③12月29日から翌年の1月3日までの日
- ④本会の創立記念日 9月16日
- ⑤本会の競馬開催日

第3 相談・案内

開示請求を行いたい旨の照会があった場合は、どのような情報が知りたいのかを確認し、開示請求の手続を説明する。その際、開示請求によらずに情報提供ができる場合又は情報公開法第2条第2項各号（法人文書に当たらない場合）若しくは第16条（他の法令により開示することとされている場合）に該当する場合は、その旨を説明する。

なお、相談・案内は、情報公開・個人情報保護窓口以外に、別表第1の事業所総務課においても行う。

第4 開示請求書の受付等

1 開示請求書の受付

(1) 開示請求書の様式

開示請求書の様式は、別記様式第1号のとおりとする。ただし、この様式によらないものであって

も、情報公開法第4条第1項各号に掲げる必要的記載事項が記載されていれば、有効な請求とする。

(2) 開示請求書の確認事項

開示請求書を受け付ける際の主要な確認事項は、次のとおりである。

- ア 情報公開法の対象文書である「法人文書」に係る開示請求であるかどうか。
- イ あて先が正しいかどうか。
- ウ 求める法人文書の特定が十分であるかどうか。
- エ その他開示請求書の記載内容に不備がないかどうか。

(3) 開示請求書の受付

開示請求書の受付は、定められた開示請求手数料を併せて収受することにより行い、その際、開示請求者に対し領収書を交付する。

(4) 郵送による開示請求書の受付

開示請求書及び開示請求手数料が郵送されてきた場合は、記載内容を確認し、不備がない場合には、受付をし、開示請求者には開示請求手数料の領収書を送付する。この場合、当該開示請求書及び開示請求手数料が情報公開室に到達した日が収受の日となる。

(5) その他

- ア 電話又は口頭による開示請求及びファクシミリ又は電子メールによる開示請求は、認めない。
- イ 本会の事務を混乱、停滞させることを目的とする等開示請求権の本来の目的を著しく逸脱したような開示請求は、権利の濫用として請求を認めないことがある。

2 開示請求書の補正

(1) 開示請求書の必要事項の記載に漏れがある場合（記載が不鮮明又は意味不明な場合を含む。）や法人文書の特定ができない場合には、受付時に補正を求める。郵送による開示請求の場合その他受付時に補正することができない場合は、情報公開室において開示請求者と連絡を取り、相当の期間を定めて開示請求者に補正を求める。開示請求者が当該期間内に補正に応じないとき又は開示請求者に連絡がつかないときは、当該開示請求に対して開示しない旨の決定を行う。

(2) あて先に軽微な不備（明らかな誤字・脱字、旧名称使用等）がある場合については、職権で補正ができるものとする。

3 事案の移送

(1) 開示請求に係る法人文書が、情報公開法第12条第1項又は第13条第1項に該当するときは、他の独立行政法人等又は行政機関の長に対し、事案を移送することがある。この場合、移送は、原則として法人文書を単位として行う。

(2) 他の独立行政法人等又は行政機関の長に対し、事案を移送するときは、別記様式第2号を作成し、これに必要な資料を添え、移送先の他の独立行政法人等又は行政機関の長へ送付する。

なお、複数の独立行政法人等又は行政機関の長に移送する場合には、その旨を当該書面に記載するものとする。

(3) 事案を移送した場合には、別記様式第3号を作成し、開示請求者に送付する。

(4) 他の独立行政法人等又は行政機関の長から事案の移送を受け、開示決定等を行ったときは、移送をした他の独立行政法人等又は行政機関の長に対して、開示決定等の結果を連絡するものとする。

(5) 開示請求に係る法人文書が複数である場合であって、複数の他の独立行政法人等又は行政機関の長に移送が行われた場合（自らも開示決定等を行う場合を含む。）の開示手数料の控除措置については、

開示決定等が早く行われた法人文書に係る開示実施手数料から順次控除措置を取ることとなるので、当該複数の独立行政法人等又は行政機関相互間で密接に連絡を取ることとする。

したがって、このような事案の移送をする場合は、開示請求者に対し、移送した旨の通知に併せて上記の措置が執られることを連絡する。

また、開示請求に係る法人文書のうち、移送しないものがある場合において、当該法人文書について開示決定等を行ったときは、他の独立行政法人等又は行政機関の長に対して、開示決定等をした旨連絡する。

第5 開示決定等の事務

1 開示・不開示の審査

(1) 不開示情報該当性の審査

開示請求に係る法人文書が存在する場合、当該法人文書に記録されている情報について、情報公開法第5条各号に規定される不開示情報（以下「不開示情報」という。）に該当するかどうかを審査し、「法人文書の全部又は一部を開示する」（情報公開法第9条第1項）か「法人文書の全部を開示しない」（同条第2項）かの判断を行う。

また、不開示情報は、情報公開法第5条各号のいずれかに該当するだけでなく、複数の号に該当することがある。

なお、開示請求に係る法人文書を保有していない場合（開示請求の対象が情報公開法第2条第2項に規定する法人文書に該当しない場合及び開示請求の対象が情報公開法以外の法律における適用除外規定により開示請求の対象外のものである場合を含む。）は、当該開示請求に対し、不開示の決定を行う。

ア 部分開示の可否（情報公開法第6条）

不開示情報が記録されている部分その他の部分と容易に区分して除くことができる場合は、当該不開示情報部分を除いて開示する。

イ 存否応答拒否の適否（情報公開法第8条）

法人文書の存在自体を答えるだけで不開示情報を開示することとなると判断される場合は、当該法人文書の存否を明らかにしないで不開示決定を行う。なお、このような性質の文書については、開示請求の対象となるものがない場合も存否応答拒否を行う。

(2) 公益上の理由による裁量的開示の判断（情報公開法第7条）

情報公開法第5条各号該当性を判断する際にも、人の生命、健康、生活又は財産を保護するために公にする必要があるか否かや、「不当」、「適正」か否かの検討において公益等との比較衡量が行われるが、情報公開法第7条に基づく裁量的開示は、最終的、総合的な判断として、不開示情報に該当する場合であっても開示することができる場合を定めたものである。

(3) 第三者に関する情報の取扱い

ア 任意的意見聴取（情報公開法第14条第1項）

開示請求に係る法人文書に、国、独立行政法人等、地方公共団体、地方独立行政法人及び開示請求者以外の者（以下「第三者」という。）に関する情報が記録されている場合であって、当該情報が不開示情報に該当するか否かを判断するに当たって当該第三者の意見を聴く必要があると認められる場合は、当該第三者に対し、意見書の提出を求めることができる。

この場合、別記様式第4号により照会を行い、第三者からの回答（意見書の提出）は、別記様式第5号を雛形として書面にて受理する。

また、一件の法人文書に多数の第三者に関する情報が記録されているときは、必要な範囲で意見聴取を行う。

イ 必要的意見聴取（情報公開法第14条第2項）

開示請求に係る法人文書に、第三者に関する情報が記録されている場合において、情報公開法第5条第1号ロ若しくは同条第2号ただし書又は第7条の規定により開示決定しようとするときは、当該第三者の所在が判明しない場合を除き、意見書を提出する機会を与える。

この場合、別記様式第6号により照会を行い、第三者からの回答（意見書の提出）は、別記様式第5号を雛形として書面にて受理する。

ウ 国の機関、他の独立行政法人等、地方公共団体又は地方独立行政法人に関する情報が記載されている場合の取扱い

開示請求に係る法人文書に国の機関、他の独立行政法人、地方公共団体又は地方独立行政法人に関する情報が記録されている場合であって、当該情報の開示・不開示の判断に当たって国の機関、他の独立行政法人等又は地方公共団体又は地方独立行政法人に意見を聴く必要があると判断されるときは、適宜、口頭又は書面により照会を行うものとする。

2 開示決定等の期限

（1）開示決定等を行うべき期限

開示請求を受けたときは、開示請求があった日から30日以内に開示決定等を行う（情報公開法第10条第1項）。

なお、開示請求書の補正を求めた場合にあつては、当該補正を求めた日の翌日から当該補正が完了した日までの日数は、算入しない。

（2）期限の延長（情報公開法第10条第2項）

情報公開法第10条第2項に基づき、開示決定等の期限を延長するときは、開示請求があった日から30日以内（補正に要した日を除く。）に当該期限を更に30日以内に限り延長する旨の決定をし、別記様式第7号により開示請求者に通知する。

（3）期限の特例（情報公開法第11条）

情報公開法第11条に基づき、60日以内にそのすべてに開示決定等をするにより事務の遂行に著しい支障が生ずるおそれがあり、開示決定等の期限を延長せざるを得ないときは、開示請求があった日から30日以内（補正に要した日を除く。）に同条を適用する旨の決定をし、別記様式第8号により開示請求者に通知する。

3 開示決定等の通知

（1）開示決定

ア 開示請求者への通知

開示請求に係る法人文書の全部又は一部を開示することを決定したときは、開示請求者に対し、その旨を書面（別記様式第9号）により通知する。

なお、別記様式第10号又は第11号の「法人文書の開示の実施方法等申出書」に所要事項を記入したものを同封し、開示請求者が希望する方法を選択できるようにする。

イ 反対意見書を提出した第三者への通知

開示決定をするに当たり開示請求に係る法人文書に記録されている情報に関して関係する第三者の意見聴取を行い、当該第三者から反対意見書が提出されている場合は、別記様式第12号により、当該第三者に通知する。

(2) 不開示決定

開示請求に係る法人文書の全部を開示しないことを決定したときは、開示請求者に対し、不開示の理由を記載した別記様式第13号により通知する。

(3) 1件とみなされる複数の法人文書の開示決定等

一の開示請求書により1件とみなされる複数の法人文書について開示請求が行われ、当該複数の法人文書について開示決定等を行った場合は、基本的には、当該複数の開示決定等は一の通知書（開示決定と不開示決定とがある場合は原則としてそれぞれ一の通知書）により行うこととするが、各法人文書についてその量や開示・不開示の審査の難易度が異なり、開示決定等の時期が異なる等の状況により、可能となったものから順次通知することもある。

第6 開示の実施

1 開示の実施方法等の申出書の確認

(1) 開示を受ける者は、原則として、開示決定通知があった日から30日以内に法人文書の開示実施方法等申出書（別記様式第10号又は第11号）に必要事項を記載して申し出ることになる（情報公開法第15条第3項及び第4項）が、この場合の30日とは、開示を受ける者が開示決定通知書を受け取った日の翌日から起算して30日以内に、法人文書の開示実施方法等申出書を投函すれば足りる。

なお、正当な理由なく、申出期間内に開示実施方法等申出書の提出がなされない場合には、開示の実施は行わない。

(2) 開示請求に係る法人文書の一部について開示の実施を求めるとして、「〇〇に関連する部分」と記載された場合であって、法人文書内に散在する〇〇関連部分を検索しなければならないようなときで、一般的には開示の実施を求める部分が不明確である場合は、適切な申出内容とするように求めることがある。

2 更なる開示の申出による法人文書の開示（情報公開法第15条第5項）

(1) 最初に開示を受けた日から30日以内に限り、別記様式第14号により更に開示を受ける旨を申し出ることができる。

(2) ただし、既に開示を受けた法人文書（その一部につき開示を受けている場合には当該部分）につきとられた開示の実施方法と同一の方法による場合（正当な理由がある場合は除く。）は、認められない。

(3) 写しの交付については、一通の法人文書につき一通に限られる。

(4) 既に開示を受けた法人文書につき写しの交付の方法がとられている場合には、原則として閲覧の方法を求めることはできない。

3 開示の実施

(1) 日時及び場所

法人文書の開示は、あらかじめ法人文書の開示を受ける者と調整した日時及び場所で行うが、原則として開示の実施場所は、情報公開室（別表第1に記載する本部）とする。なお、法人文書の原本を管理する事業所において、当該法人文書の開示を実施することがある。

(2) 開示決定通知書の持参

開示の実施は、開示決定通知書を持参した者に行う。ただし、開示決定通知書を持参していない者が、開示請求者と同一人であることが証明されれば、開示の実施を行う。

(3) 開示請求者以外の者に対する開示の実施

開示決定は、開示請求者に対する処分であることから、開示請求者のみが開示の実施を受ける地位にあるものであり、開示請求者以外の者に対しては、開示の実施は認められない。

したがって、最初から連名で受けた開示請求は、1件の開示請求として扱い（いずれの者も開示の実施を受ける地位にある）、連絡先となる代表者に対して開示決定通知書を交付することとし、連名者は、開示請求者としていずれか一人が、又は連名者が同時に開示の実施を受けることができるが、いずれか一人が閲覧した場合には、当該閲覧した部分に係る開示の実施の義務は終了したことになる。また、写しの交付の場合には、1部のみの交付となる。

4 法人文書の開示の実施方法

(1) 文書又は図画の開示の実施方法は、法人文書の種類ごとに次のとおりとする。

ア 文書又は図画

次に掲げる方法

1.) 当該文書又は図画（情報公開法第15条第1項ただし書の規定が適用される場合にあつては、2に定めるもの）の閲覧

2.) 当該文書又は図画を複写機により日本工業規格A列3番（以下「A3判」という。）以下の大きさの用紙に複写したものの交付（3に掲げる方法に該当するものを除く。）。ただし、これにより難しい場合にあつては、当該文書若しくは図画を複写機により日本工業規格A列1番（以下「A1判」という。）若しくは日本工業規格A列2番（以下「A2判」という。）の用紙に複写したもの又は当該文書若しくは図画を撮影した写真フィルムを印画紙（縦89ミリメートル、横127ミリメートルのもの又は縦203ミリメートル、横254ミリメートルのものに限る。以下同じ。）に印画したものの交付

3.) 当該文書又は図画を複写機により用紙にカラーで複写したものの交付

4.) 当該文書又は図画をスキャナにより読み取ってできた電磁的記録をフレキシブルディスクカートリッジ（日本工業規格X6223に適合する幅90ミリメートルのものに限る。以下同じ。）又は光ディスク（日本工業規格X0606及びX6281又はX6241に適合する直径120ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。（2）のウ5において同じ。）に複写したものの交付

イ マイクロフィルム

次に掲げる方法

1.) 当該マイクロフィルムを専用機器により映写したものの閲覧。ただし、これにより難しい場合にあつては、当該マイクロフィルムをA1判以下の大きさの用紙に印刷したものの閲覧

2.) 当該マイクロフィルムを日本工業規格A列4番の用紙に印刷したものの交付。ただし、これにより難しい場合にあつては、A1判、A2判又はA3判の用紙に印刷したものの交付

ウ 写真フィルム

当該写真フィルムを印画紙に印画したものの閲覧又は交付

エ スライド（（2）のオに規定する場合におけるものを除く。）

次に掲げる方法

1.) 当該スライドを専用機器により映写したものの閲覧

2.) 当該スライドを印画紙に印画したものの交付

(2) 電磁的記録は、情報公開法第15条第2項により、法人文書の種類ごとに次に定める方法で開示する。

なお、写しを作成する場合の記録媒体については、システムの安全性を考慮して、本会が用意したものを使用する。

ア 録音テープ又は録音ディスク（(2)のオに規定する場合におけるものを除く。）

次に掲げる方法

1.) 当該録音テープ又は録音ディスクを専用機器により再生したものの聴取

2.) 当該録音テープ又は録音ディスクを録音カセットテープ（日本工業規格C5568に適合する記録時間120分のものに限る。別表第2の5の項口において同じ。）に複写したものの交付

イ ビデオテープ又はビデオディスク

次に掲げる方法

1.) 当該ビデオテープ又はビデオディスクを専用機器により再生したものの視聴

2.) 当該ビデオテープ又はビデオディスクをビデオカセットテープ（日本工業規格C5581に適合する記録時間120分のものに限る。以下同じ。）に複写したものの交付

ウ 電磁的記録（(2)のア、イ、エ、オに規定する場合におけるものを除く。）

次に掲げる方法であって、本会がその保有するプログラム（電子計算機に対する指令であって、一の結果を得ることができるように組み合わせられたものをいう。）により行うことができるもの

1.) 当該電磁的記録をA3判以下の大きさの用紙に出力したものの閲覧

2.) 当該電磁的記録を専用機器（開示を受ける者の閲覧又は視聴の用に供するために備え付けられているものに限る。）により再生したものの閲覧又は視聴

3.) 当該電磁的記録をA3判以下の大きさの用紙に出力したものの交付

4.) 当該電磁的記録をA3判以下の大きさの用紙にカラーで出力したものの交付

5.) 当該電磁的記録をフレキシブルディスクカートリッジ又は光ディスクに複写したものの交付

エ 映画フィルムの開示の実施の方法は、次に掲げる方法とする。

1.) 当該映画フィルムを専用機器により映写したものの視聴

2.) 当該映画フィルムをビデオカセットテープに複写したものの交付

オ スライド及び当該スライドの内容に関する音声を記録した録音テープを同時に視聴する場合（以下、「スライド（音声付きのもの）」という。）における開示の実施の方法は、次に掲げる方法とする。

1.) 当該スライド及び当該録音テープを専用機器により再生したものの視聴

2.) 当該スライド及び当該録音テープをビデオカセットテープに複写したものの交付

3.) 前各号に定められた方法により開示を受ける者から、持参したカメラ等を用いて閲覧に供する文書、図画又は電磁的記録の撮影を行いたい旨の申し出があったときは、本会施設管理上の問題が生じるおそれがある場合を除きこれを認める。

5 部分開示の実施方法

法人文書の部分開示を実施する場合には、不開示情報が明らかにならないよう開示の実施方法ごとに適切に行う。また、部分開示（部分不開示）の範囲（量）が明確になるように努める。法人文書の種類ごとの部分開示の実施方法は、次のとおりである。

(1) 文書又は図画

部分開示を行う場合には、原則として、原本のコピーに墨塗りをを行い、更にコピーをしたものを閲覧させる。

また、部分開示の場合の写しの交付は、閲覧の場合と同様な作業をした上で交付することとなる。

なお、不開示部分の量（範囲）が明らかになるようにしておく必要があるため、不開示部分を除去して（後方部分を詰めて）、当該文書のコピーを作成することは適当ではないが、例えば、ページ単位で全部墨塗り状態のものが何ページにもわたる場合には、○ページから○ページまでの部分はすべて不開示である旨を説明する。

(2) マイクロフィルム

マイクロフィルムの閲覧を専用機器（マイクロリーダー）で行う場合、当該機器の機能が一コマコマを正確に特定して容易に表示することができるときは、一コマ単位で不開示情報を含むコマを除外して閲覧させるが、不開示部分は一コマ部分の一部分の場合があり得、この場合はマイクロリーダーでの部分開示は行わない。

したがって、部分開示を行う場合には、一般的には、用紙に印刷したものの閲覧の方法により行うことになり、その場合の部分開示の方法は、文書又は図画の方法と同じものとなる（写しの交付の場合も同様。）。

(3) 写真フィルム

写真フィルムについて、部分開示を閲覧の方法により行う場合、一般的には、コマ単位で不開示情報が写っていないかどうかを確認し、不開示情報が写っていないものを印画紙に印画し、作成したものを閲覧させる。

部分開示を写しの方法により行う場合も、同様にコマ単位で行う。

(4) スライド

スライドについて、部分開示を閲覧（専用機器による映写）の方法により行う場合、コマ単位で不開示情報が含まれているかどうかを確認し、不開示情報が含まれているコマを抜き取った上で、閲覧させる（一コマのスライド中の一部のみを不開示とすることは、一般的に容易ではないことから行わない。）。

また、部分開示を写しの交付の方法により行う場合には、写真フィルムと同様に、不開示情報が含まれていないコマを印画紙に印画したものを交付する。

(5) 録音テープ又は録音ディスク

録音テープ又は録音ディスクについて、部分開示を閲覧（専用機器により再生したものの聴取）の方法により行う場合、当該原本を聴取させることは不適當であるので、当該原本の内容を同種の媒体に複写（ダビング）して、その際に不開示情報の部分については無録音部分として対応する。

なお、不開示情報、例えば、氏名等が当該原本の数箇所には散在して録音されている場合には、「容易に区分できない」場合に該当することもあり得、この場合には、録音テープ又は録音ディスクの前半部分又は後半部分の消去等の措置で足りる場合に、部分開示を行う。

写しの交付（録音カセットテープの交付）を行う場合も同様とする。

(6) ビデオテープ又はビデオディスク

上記の録音テープ又は録音ディスクと同様の対応とする。

(7) 電磁的記録

電磁的記録について、部分開示を閲覧（「A3判以下の大きさの用紙に出力したものの閲覧」及び「専用機器により再生したものの閲覧又は視聴」）の方法により行う場合に、「用紙に出力したものの閲覧」は、プリントアウトしたものについて上記「文書又は図画」の方法と同様の方法により行うことになる。また、「専用機器により再生したものの閲覧又は視聴」の場合には、原本である電磁的記録（電子文書）を複写して同一のものを作成し、当該作成された複写物（コピー）に電磁的な被覆又は文字（情報）の置換え等を行った上で、閲覧に供する（この場合、不開示部分の範囲（量）が不明となるため、一般的には電磁的な文字（情報）削除は行わないが、全部不開示のページ（例えば、全ページにわたって××の文字のもの）が何ページもある場合には、当該不開示部分を削除して閲覧に供することもある。）。

なお、いずれの場合にあっても、本会が保有する既存のプログラムにより行うことができない場合及び不開示情報と開示情報とを容易に分離し得ない場合には、対応しない。

写しの交付（「別表第2の7の項へのフレキシブルディスクカートリッジに複写したものの交付」及び「別表第2の7の項ト又は項チの光ディスクに複写したものの交付」）の場合も、同様の措置を講じたものの写しを交付する。

（8）映画フィルム

部分開示を閲覧（専用機器により映写したものの閲覧）の方法により行う場合、映画フィルムの一コマ単位で不開示部分を被覆して専用機器により映写することは不可能であるので、当該映画フィルムをビデオカセットテープ（記録時間120分のVHS方式）に複写して、その際に不開示情報の部分については無録画部分とし、対応したものを閲覧に供する。

写しの交付についても同様である。

（9）スライド（音声付きのもの）

部分開示を閲覧の方法（専用機器により再生したものの視聴）により行う場合、スライド部分と音声部分とが同期をとって再生されなければ意味を有しないので、一般的に、原本を閲覧に供することは不可能である。したがって、当該スライド（音声付きのもの）をビデオカセットテープ（記録時間120分のVHS方式）に複写して、その際に不開示情報の部分については無録画部分若しくは無録音部分とし、対応したものを閲覧に供する。

写しの交付についても同様である。

（10）前各号に定められた方法により部分開示を受ける者から、持参したカメラ等を用いて閲覧に供する文書、図画又は電磁的記録の撮影を行いたい旨の申し出があったときは、本会施設管理上の問題が生じるおそれがある場合を除きこれを認める。

6 開示に当たっての注意事項

法人文書の開示を受ける者が、当該法人文書を汚損し、若しくは破損し、又はその内容を損傷するおそれがあるときは、当該法人文書の閲覧又は視聴の行為を中止させる。

7 郵送による写しの交付

（1）郵送による写しの交付の手続

郵送により写しの交付を行う場合は、法人文書の開示を受ける者から、求める開示の実施の方法に対応した開示実施手数料を現金若しくは相当する定額小為替及び開示決定通知書に記載した郵送料の額の現金、郵便切手若しくは定額小為替の送付を受け、これを確認した後、対象法人文書の写しを送付するものとする。

（2）返送の催告等

郵送による写しの交付を希望し、相当の期間内に示された開示実施手数料及び郵送料の送付がない場合は、相当の期間を定め、開示請求者に送付の催告を行う。

第7 手数料等

1 手数料の納付方法

開示請求手数料又は開示実施手数料の納付は、現金若しくは定額小為替をもって行う。

2 手数料の額及びその計算方法

(1) 開示請求手数料

法人文書1件につき300円とし、一の法人文書ファイルにまとめられた複数の法人文書又は相互に密接な関連を有する複数の法人文書の開示請求を一の開示請求書によって行うときは、当該複数の法人文書を1件の法人文書とみなす。

別々の法人文書ファイルにまとめられた法人文書間において「相互に密接な関連」を有するかどうかについては、本会が客観的に判断することとされているが、他の課等が保存しているもので共同作業に係るものでないもの、年度を異ならせるもので年度をまたがった継続案件でないもの等は、一般的には、相互に密接な関連を有しているものとはいえない。

(2) 開示実施手数料

ア 開示実施手数料の額は、別表第2の左欄に掲げる法人文書の種別ごとに、同表の中欄に掲げる開示の実施方法に応じ、それぞれ同表の右欄に定める額により算出した額から開示請求手数料に相当する300円を減じた額である。300円を減じた額が、マイナスとなるときは、無料となる。

イ この控除措置については、一開示請求につき300円を限度になされるものであり、相互に密接な関連を有する複数の法人文書の開示請求が一の開示請求書によって行われた場合、開示を受ける法人文書が複数であっても、初回の複数の法人文書に係る開示の実施及び更なる開示の実施を含めて、1件の法人文書とみなしてそれぞれの基本額の合計額について300円の控除措置を行うものである。

ウ 開示請求に係る法人文書が、情報公開法第12条第1項及び第13条第1項に該当し、他の独立行政法人等又は行政機関の長に事案を移送し、開示決定等を行ったときも、当該他の独立行政法人等又は行政機関の長において、開示請求手数料の控除措置をとる。

エ 他の独立行政法人等又は行政機関の長から事案の移送を受け、開示決定等を行ったときは、本会において、開示請求手数料の控除措置をとる。

オ 相互に密接な関連を有する複数の法人文書の開示請求が一の開示請求書により行われた場合であって、当該開示請求事案の一部が他の独立行政法人等又は行政機関の長に移送され、複数の独立行政法人等又は行政機関の長において開示が実施されることとなるときは、開示決定が早く行われた法人文書について300円の控除措置を適用し、なお控除可能残額がある場合には、次に開示決定が行われた法人文書について、控除可能残額の調整を行う。

3 過誤納等の手続

(1) 既納手数料の取扱い

正当な手続により既に納付された手数料については、過誤納の場合を除き、返還しない。

したがって、開示請求を受け付けた後に請求の取下げがあった場合、開示の実施の申出を受け付けた後に取下げがあった場合又は開示の実施を受けない場合には、既納の手数料は、返還しない。

(2) 送付用郵便切手の取扱い

必要額よりも多い郵便切手が送付されてきた場合は、送付されてきた切手が複数枚で、かつ、当該写しを送付するために必要となる郵送料と同額に分離できる場合は分離して、余分は法人文書の写しを送付する際に返却することとし、分離が不可能である場合はそのまま使用する。

(3) 不開示決定時の開示請求手数料の取扱い

不開示決定を行った場合においても、納付された開示請求手数料の返還は行わない。

4 開示実施手数料の減額又は免除

(1) 経済的困難を理由とする場合の申請による減額又は免除

ア 法人文書の開示を受ける者が、経済的困難により開示実施手数料を納付する資力がないと認めるときは、開示請求1件につき2千円を限度として、開示実施手数料を減額し、又は免除することができる。

イ 開示実施手数料の減額又は免除を受けようとする者は、当該減額又は免除を求める額及びその理由を別記様式第15号に記載し、生活保護法（昭和25年法律第144号）第11条第1項各号に掲げる扶助を受けていることを理由とする場合にあっては当該扶助を受けていることを証明する書面を、その他の事実を理由とする場合にあっては当該事実を証明する書面を添付しなければならない。

ウ 減額又は免除の事由に該当すると認めるときは、別記様式第16号により開示実施手数料の減額又は免除を受けようとする者に通知する。

エ 減額又は免除の事由に該当しないときは、別記様式第17号により通知する。

(2) 一般に周知させることが適当な場合における減額又は免除

本会は、開示決定に係る法人文書について、開示請求者だけでなく何人にも周知することが特定の施策目的の達成に寄与する場合、情報公開法第5条第1号ロ若しくは第2号ただし書の規定の適用により開示しようとする場合又は同法第7条の規定の適用により開示しようとする場合など、公益上の理由で開示しようとする場合であって、一般に周知することが適当と認められるときは、開示実施手数料を減額又は免除することがある。

なお、本決定を行った場合には、その旨を法人文書開示決定通知書に記載する。

第8 情報公開・個人情報保護審査会への諮問

1 審査請求

開示決定等又は開示請求に係る不作為について、行政不服審査法（昭和37年法律第160号）による審査請求があり、情報公開法第18条第2項により、情報公開・個人情報保護審査会に諮問するときは、別記様式第18号により行う。

なお、審査請求は、行政不服審査法第19条に規定する審査請求書の提出によるものとする。

2 諮問をした旨の通知

情報公開・個人情報保護審査会に諮問したときは、次に掲げる者に対し、別記様式第19号により、諮問した旨を通知する。

ア 審査請求人及び参加人

イ 開示請求者（開示請求者が審査請求人又は参加人である場合を除く。）

ウ 当該審査請求に係る開示決定等について反対意見を提出した第三者（当該第三者が審査請求人又は参加者である場合を除く。）

附 則

この要綱は、平成14年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成17年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月28日から施行する。

(別表第1)

日本中央競馬会の情報公開・個人情報保護 窓口

事業所	郵便番号	所在地	担当課	電話番号
本部	106-8401	東京都港区六本木 6-11-1 六本木ヒルズゲートタワー	情報公開室	03(5785)7930

○開設日：月曜日～金曜日（祝日、本会創立記念日である9月16日、年末年始、本会の競馬施行日）を除く。）

午前10時～午後0時、午後1時～午後5時の間

※郵送による開示請求書の受付は上記窓口のみで行います。

日本中央競馬会の情報公開・個人情報保護 相談・案内窓口

事業所	郵便番号	所在地	担当課	電話番号
馬事公苑	158-8523	東京都世田谷区上用賀 2-1-1	総務課	03(3429)5101 (代表)
競馬学校	270-1431	千葉県白井市根 835-1	総務課	047(491)0333 (代表)
競走馬総合研究所	329-0412	栃木県下野市柴 1400-4	総務課	0285(44)0090 (代表)
日高育成牧場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535-13	総務課	0146(28)1211 (代表)
宮崎育成牧場	880-0036	宮崎県宮崎市花ヶ島町大原 2347	総務課	0985(25)3448 (代表)
栗東トレーニング ・センター	520-3085	滋賀県栗東市御園 1028	総務課	077(558)0101 (代表)
美浦トレーニング ・センター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500-2	総務課	029 (885)2111 (代表)

札幌競馬場	060-0016	北海道札幌市中央区北 16 条西 16-1-1	総務課	011(726)0461 (代表)
函館競馬場	042-8585	北海道函館市駒場町 12-2	総務課	0138(53)1021 (代表)
福島競馬場	960-8114	福島県福島市松浪町 9-23	総務課	024(534)2121 (代表)
新潟競馬場	950-3301	新潟県新潟市北区笹山 3490	総務課	025(259)3141 (代表)
中山競馬場	273-0037	千葉県船橋市古作 1-1-1	総務課	047(334)2222 (代表)
東京競馬場	183-0024	東京都府中市日吉町 1-1	総務課	042(363)3141 (代表)
中京競馬場	470-1132	愛知県豊明市間米町敷田 1225	総務課	052(623)2001 (代表)
京都競馬場	612-8265	京都府京都市伏見区葭島渡場島町 32	総務課	075(631)3131 (代表)
阪神競馬場	665-0053	兵庫県宝塚市駒の町 1-1	総務課	0798(51)7151 (代表)
小倉競馬場	802-0841	福岡県北九州市小倉南区北方 4-5-1	総務課	093(962)3236 (代表)

○開設日：水曜日～金曜日（祝日、事業所の指定した休日、年末年始は除く。）

○開設時間：午前 10 時～午後 0 時、午後 1 時～午後 5 時の間

（別表第 2）

法人文書の種別	開示の実施の方法	開示実施手数料の額
1 文書又は 図画 (2の項から 4の項まで、 8の項又は9 の項に該当す るものを除 く。)	イ 閲覧	100 枚までごとにつき 100 円
	ロ 撮影した写真フィルムを 印画紙に印画したものの閲覧	1 枚につき 100 円に 12 枚までごとに 760 円を加えた額
	ハ 複写機により複写したものの交付（ニ に掲げる方法に該当するものを除く。）	用紙 1 枚につき 10 円（A 2 判については 40 円、A 1 判については 80 円）
	ニ 複写機により用紙にカラーで複写した ものの交付	用紙 1 枚につき 20 円（A 2 判については 140 円、A 1 判については 180 円）
	ホ 撮影した写真フィルムを印画紙に印画 したものの交付	1 枚につき 120 円（縦 203 ミリメートル、 横 254 ミリメートルのものについては、520 円）に 12 枚までごとに 760 円を加えた額
	ヘ スキャナにより読み取ってできた電磁 的記録をフレキシブルディスクカートリッ ジに複写したものの交付	1 枚につき 50 円に当該文書又は図画 1 枚ご とに 10 円を加えた額。
	ト スキャナにより読み取ってできた電磁 的記録を光ディスク（日本工業規格 X0606 及び X6281 に適合する直径 120 ミリメー	1 枚につき 100 円に当該文書又は図画 1 枚 ごとに 10 円を加えた額。

	トルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複写したものの交付	
	チ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を光ディスク(日本工業規格 X6241 に適合する直径 120 ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複写したものの交付	1 枚につき 120 円に当該文書又は図画 1 枚ごとに 10 円を加えた額。
2 マイクロフィルム	イ 用紙に印刷したものの閲覧	用紙 1 枚につき 10 円
	ロ 専用機器により映写したものの閲覧	1 巻につき 290 円
	ハ 用紙に印刷したものの交付	用紙 1 枚につき 80 円(A 3 判については 140 円、A 2 判については 370 円、A 1 判については 690 円)
3 写真フィルム	イ 印画紙に印画したものの閲覧	1 枚につき 10 円
	ロ 印画紙に印画したものの交付	1 枚につき 30 円(縦 203 ミリメートル、横 254 ミリメートルのものについては、430 円)
4 スライド (9 の項に該当するものを除く。)	イ 専用機器により映写したものの閲覧	1 巻につき 390 円
	ロ 印画紙に印画したものの交付	1 枚につき 100 円(縦 203 ミリメートル、横 254 ミリメートルのものについては、1,300 円)
5 録音テープ (9 の項に該当するものを除く。) 又は録音ディスク	イ 専用機器により再生したものの聴取	1 巻につき 290 円
	ロ 録音カセットテープに複写したものの交付	1 巻につき 430 円
6 ビデオテープ又はビデオディスク	イ 専用機器により再生したものの視聴	1 巻につき 290 円
	ロ ビデオカセットテープに複写したものの交付	1 巻につき 580 円
7 電磁的記録 (5 の項、6	イ 用紙に出力したものの閲覧	用紙 100 枚までごとにつき 200 円
	ロ 専用機器により再生したものの閲覧又は視聴	1 ファイルにつき 410 円

の項、8の項 又は9の項に 該当するもの を除く。)	ハ 用紙に出力したものの交付（ニに掲げる方法に該当するものを除く。）	用紙1枚につき10円
	ニ 用紙にカラーで出力したものの交付	用紙1枚につき20円
	ホ フレキシブルディスクカートリッジに複製したものの交付	1枚につき50円に1ファイルごとに210円を加えた額
	ヘ 光ディスク（日本工業規格 X0606 及び X6281 に適合する直径120ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。）に複製したものの交付	1枚につき100円に1ファイルごとに210円を加えた額
	ト 光ディスク（日本工業規格 X6241 に適合する直径120ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。）に複製したものの交付	1枚につき120円に1ファイルごとに210円を加えた額
8 映画フィルム	イ 専用機器により映写したものの視聴	1巻につき390円
	ロ ビデオカセットテープに複製したものの交付	6,800円（16ミリメートル映画フィルムについては13,000円、35ミリメートル映画フィルムについては10,100円）に記録時間10分までごとに2,750円（16ミリメートル映画フィルムについては3,200円、35ミリメートル映画フィルムについては2,650円）を加えた額
9 スライド 及び録音テープ （第4条第2 項に規定する 場合における ものに限る。）	イ 専用機器により再生したものの視聴	1巻につき680円
	ロ ビデオカセットテープに複製したものの交付	5,200円（スライド20枚を超える場合にあっては、5,200円にその超える枚数1枚につき110円を加えた額）

備考 1の項ハ若しくはニ、2の項ハ又は7の項ハ若しくはニの場合において、両面印刷の用紙を用いるときは、片面を1枚として額を算定する。